

経営比較分析表（令和元年度決算）

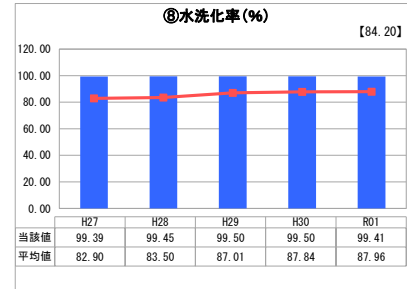
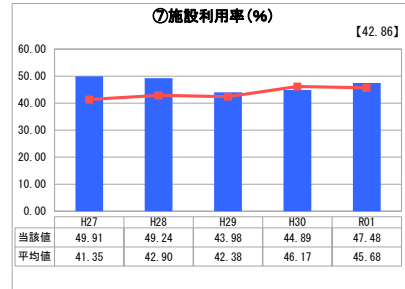
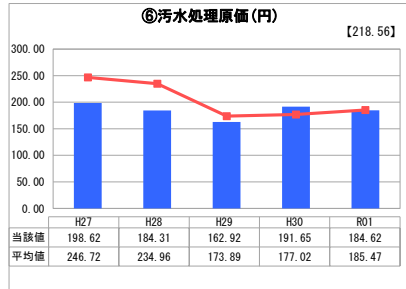
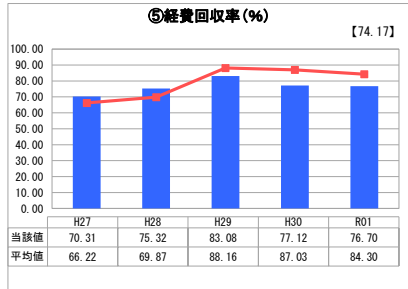
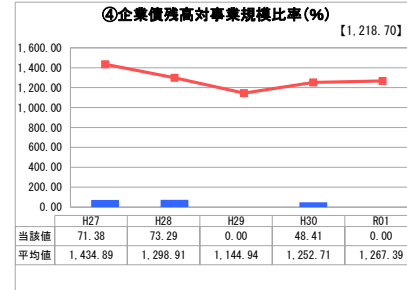
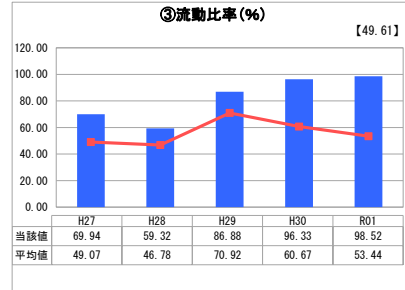
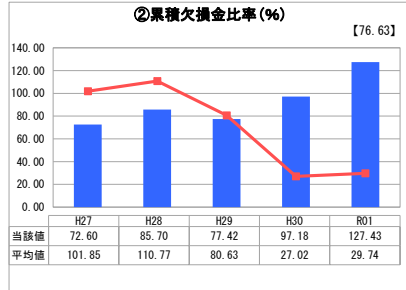
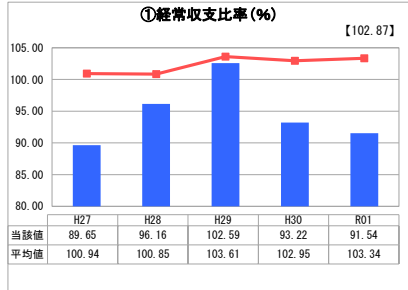
石川県 白山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	68.16	2.38	86.70	2,662

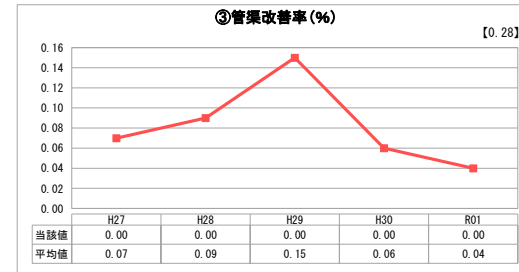
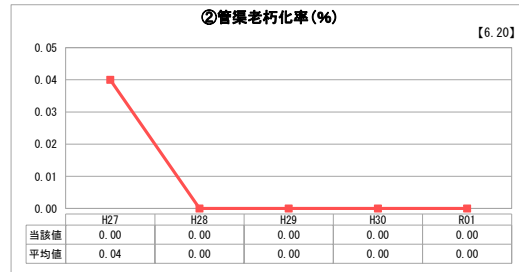
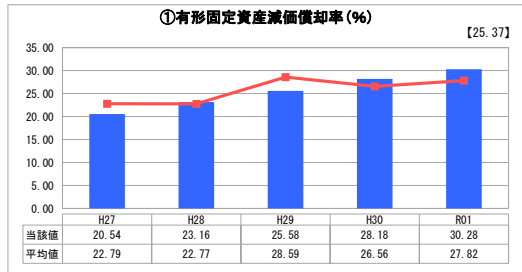
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
113,715	754.93	150.63
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,702	1.63	1,657.67

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は平成29年度に100%を超えたが、平成30年以降は100%を下回り、それに伴い累積欠損金も増加に転じた。一方、汚水処理原価は類似団体と同水準であるが、経費回収率については100%を下回っている。類似団体との比較では、経営の健全性が保たれているとは言えず、使用料金の見直しも含めより効率的な事業運営を行っていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

減価償却率は今のところ低く、管渠は比較的新しい状態ではあるが、早期にストックマネジメント計画を策定し、後年度における管渠更新投資の平準化に努める必要がある。

全体総括

管渠の老朽化が始まるまでに、さらなる経費の節減と使用料金の見直しにより、利益の確保、累積欠損金の解消に取り組み、早期に良好な経営状態となることが重要である。そのためには、将来の管渠更新や企業債の償還に備え、適切な規模の更新計画と財務計画を検討していく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。